

お客様に役立つことを第一に考えます。

お客様に役立つことを第一に考え、品質・安全性の向上に努めることで、期待の先を行く製品・サービスを生み出していきます。
また、お客様の個人情報を正当な方法により収集し、利用目的を明確にした上で厳重に取り扱います。

ECLIPSEお客様サポート

お客様相談窓口の取り組み

市販製品に関するお客様からのお問い合わせに対して、お客様相談窓口では、「一人一人のお客様に寄り添う対応」をモットーに、つながりやすく質の高いコールセンターをめざしています。お問い合わせの内容を分析することで、日々、改善に取り組んでいます。

近年、お客様から寄せられるご相談で最も多いのは、カーナビゲーションシステムの「地図更新」に関する内容で、全体の約3割を占めています。現在主流のSDメモリーナビゲーションでは、お客様ご自身でパソコンを操作して地図データを更新することが可能なため、この操作に関してご自身の解決が難しくサポートを必要とされるお客様が多くなっています。

このようなお客様の期待に応えるため、着信直後にお問い合わせ内容に合う番号を選択いただくことで、相談内容に適したオペレーターへおつなぎしています。

さらに、お客様相談窓口では、お困りごとや製品・サービスへのご要望、お褒めの言葉や広告への反響なども含めて、お客様の声を社内へフィードバックする活動も行っています。

修理対応

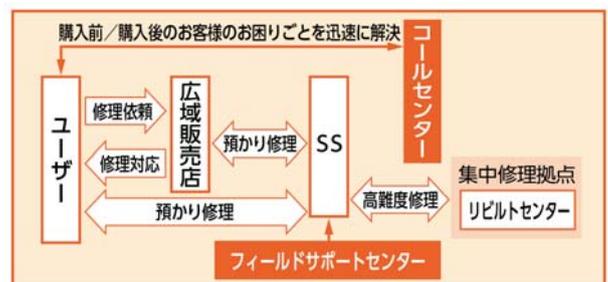
「早く・安く・確実な修理」をモットーに、国内では、全国93拠点の認定サービスショップ（以下SS）が製品の修理にあたり、全国7か所のフィールドサポートセンター（以下FSC）が故障診断など技術面でSSをサポートしています。海外では現地法人10拠点、FSC14拠点、SS90拠点の体制を構築しており、地域に密着したサービスを提供しています。

さらに、SSおよび集中修理拠点のサービス技術力に関する認定試験を毎年実施するなど、サービスレベルの維持・向上に努めています。



集中修理拠点に「高機能リワークシステム」を導入

■国内カスタマーサービス体制（ECLIPSE製品向け）



また、修理面においては、最小部品単位での修理を行うことで、お客様に対しては安価な修理価格を実現するとともに、修理の際に発生する廃棄部品量の削減に取り組んでいます。

2016年度では、国内、北米に加え欧州の修理拠点にも「高機能リワークシステム」を導入し、BGA-ICの修理交換対応の実施エリアを拡大することで、電子回路基板の安価な修理、廃棄量の削減を実現しました。

これからも、国内外を問わず、地域に根づいたカスタマーサービスを展開していきます。

BGA-IC:

BGAとはBall Grid Arrayの略で、ICチップのパッケージ方法のひとつ。実装面積が小さいことから多数のピン（電極）を設けることができ密度の高い実装が可能である。その反面、このパッケージでは、はんだ付けの状態を確認したり、部品を付け直したりすることは困難とされ、修理には高度な技術が必要とされる。

Voice



■従業員の声

九州・沖縄地方のフィールドサポート活動を担う福岡FSCでは、常にお客様目線で取り組むことを心がけています。お客様の生の声を社内に展開することは、お客様ニーズに合ったより良い製品づくりにつながり、やりがいを感じます。今後もお客様のことを第一に考え、フィールドサポート活動に取り組んでいきたいと思えます。

第二サービス部 福岡FSC 奥井 亜紀子

個人情報保護方針

お客様データの保護

当社グループは、お客様の氏名、住所、メールアドレスなど特定の個人を識別できる個人情報を適切に取り扱うことは、企業としての社会的責務であるという認識のもと、「個人情報保護方針」に基づいて規定を整備し、個人情報保護の取り組みを実施しています。

- 個人情報を取り扱う部門単位で管理者を置き、適切に管理しています。
- 個人情報への不正なアクセス、個人情報の紛失・改ざん・漏えいなどを防止するために、組織的、技術的な防御対策を実施しています。
- 個人情報を取得する際にはその利用目的を明示し、必要な範囲で適法かつ公正な手段により取得しています。
- お客様の個人情報を業務委託先に提供する場合は、お客様の同意を得た上で、委託先に、契約等により適切な管理を義務付けています。
- 個人情報に関する問い合わせ窓口を公表し、窓口を通じてご本人様への個人情報の開示・訂正・利用停止などの対応を実施します。

さらに、カーナビゲーション本体内にはお客様の個人情報が含まれることから、SSにも管理責任者の設置など、個人情報保護の取り組みを義務づけています。

製造・品質管理

品質・製品安全の追求

お客様に信頼され、ご満足いただける商品をお届けするため、ISO/TS16949、ISO9001の国際品質マネジメント規格に基づく品質保証体制をグローバルに展開し、国内外の各拠点で品質向上のためのサイクルを回しています。このような取り組みの中で、「富士通テングループ製品安全憲章」に基づき、製品企画から量産にいたる各段階で、品質および製品安全面の確保を行っています。

2016年度から、ISO/TS16949に替わる自動車産業の新しい品質マネジメントシステム規格「IATF 16949*」に準じた社内品質マネジメントシステムの改定を進め、2017年10月に取得の見込みです。

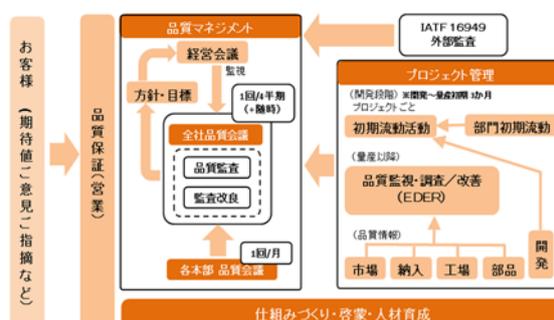
各機能においては、品質の造り込みを目的に、設計、生産、品質保証の役割・連携責任を決め、自工程完結により品質を担保する体制を構築しています。この体制をもとに、各本部と品質保証本部が連携して、毎月の品質会議などで議論をしながら品質向上に向け取り組んでいます。

* IATF16949:

IATF(国際自動車産業特別委員会)が作成した自動車産業の国際的な品質マネジメントシステム規格

* EDER(Early Detection, Early Resolution):
品質問題をいち早く発見し、迅速に問題を解決し、改善・改良品を素早くお客様にお届けする活動のこと

品質マネジメントシステム



日常の活動として、量産初期までの製品を対象とする「初期流動活動」を行い、量産初期以降では各品質情報をもとに監視し、問題があれば早期解決を図ります。また、月に一度の「品質会議」では本部長を交え、開発品質の造り込みや問題解決のスピードアップを図る議論をしています。さらに、四半期ごとには社長、品質担当役員、各担当役員を交え、実施する「全社品質会議」を行い、品質状況のレビュー、品質マネジメントを含めた振り返り、是正を実施しています。

品質意識の向上・人材育成

品質や仕事の「質」に対する全従業員の意識の向上を狙いとして、特別展示会(年3~4回)を実施し、パネル展示、ビデオ上映などにより、重要な品質問題、お客様からの苦言・苦情、他社比較、評価結果などを共有するとともに、社外講師を招いて講演会も開催しました。現物、映像などの展示により参加者の緊張感を引き出し、「失敗を他人事とせず、真摯に品質に向き合うこと」の重要性をアピールしました。今後も、お客様の生の声を伝えることなどによって、意識啓発に取り組めます。

併せて、仕事の質の向上、職場力の向上を目的として、QCサークル活動(小集団活動)を行っています。2016年度は「QCサークル活動で自ら考え・行動しよう」をスローガンに対象となる4,660人全員が活動し、成果を上げました。年度の活動のまとめとして、2017年3月に開催した「第71回全社優秀事例発表会」には約250名が参加。国内5事例、海外1事例の発表を通じて、優秀事例の共有と相互啓発を進めました。

今後も日常的な活動を通じて、従業員の品質に対する意識の維持・向上を図っていきます。



2016年11月に品質事例展示会を開催し、品質に対する意識の向上を図りました



「第71回全社優秀事例発表会」における富士通TEN AVEインドネシアの発表風景

Voice



(写真左から)
品質保証本部 顧客品質部
解析調査チーム
梅宮 拓人、萩山 寛樹

■従業員の声

QCサークル(小集団改善)活動は、「人材育成・職場活性化・会社貢献」の基本理念のもと、職場の問題・課題について品質管理手法を使い、メンバーと協力して解決していく活動です。

この活動を通して、改めて品質管理の大切さと、皆で協力して取り組む意義を実感しました。「自ら考え・行動する」を意識し、メンバーをまとめながら進めることで、自身の成長にもなったと考えています。

また、社外での発表も初めて経験し、自分達のレベルを知ることができました。この経験を今後の業務にも活かしていきます。

品質保証本部 顧客品質部 解析調査チーム 萩山 寛樹